

1 日 時 平成24年6月25日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市生涯学習センター 1階会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員13名

川内 清文、小林 清次郎、坂本 智子、澤井 幸子、設楽 厚子、  
芝 喜久子、鈴木 映子、田野倉 晴美、寺谷 弘壬、戸島 忠彦、  
比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

（2）職員3名

町田文化スポーツ部次長  
茂木生涯学習スポーツ課生涯学習推進担当副主幹、大木

4 開 会

会長より挨拶

次長より挨拶

5 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

- ①レジュメ、②第2回生涯学習審議会会議録、
- ③第5ブロック会議 議事録
- ④【社会教育委員のみ】一般社団法人全国社会教育委員連合 書類一式
- ⑤生涯学習だより

（2）前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した会議録（案）は、一部校正後、市民に公開すること、ホームページに掲載することが了承された。

（3）第5ブロック会議の報告

6月14日（木）午後2時 生涯学習センターにて開催。

■ 内容は、ブロック研修会について、都市社連協第1回役員会の検討事項と報告をした。都市社連協に関しては、前回皆さんに配布した資料に基づき報告した。

いただいた意見として、多摩市の名称変更による規約改正の件について、多摩市が今後も社会教育委員として活動していきたいという意思があることを尊重して、どこかで落とし処を作らなければいけないのでは、という意見が出た。理事会の在り方についても数を減らせば良いわけではなく、役員も輪番制で新しい人にも役が回ってくる。理事会の方がより経験者が多いので、参考意見がたくさん貰えるのではないか、とのことだった。

全国社連協の加入についても情報を得ながら、まだまだ審議を重ねる必要がある等、第5ブロック会議でもご意見をいただいた。そのいただいたご意見は、幹事市である府中市が役員会に持っていく。

第5ブロックの研修会の日程については、10月27日（土）午後2時から生涯学習センターで開催することに決定した。

その内容について、テーマに沿って基調講演を20分程度府中市が受け持つことになった。その後、各市の事例発表として、小金井市、調布市、武蔵野市の3市に15分ずつ発表をしていただき、その後グループ討議に入る。その討議した内容を各グループに発表していただき、まとめをして終了となる。そして例年行っている研修終了後の懇親会についても行うことになった。

## 6 協議事項

[意見の趣旨]           ■：委員       ➡：事務局

### (1) 第5ブロック研修会のテーマについて

- 第5ブロック会議で、最終的に府中市に一任された。再度テーマについて考えていきたい。ブロック会議の中で色々なご意見をいただいた。府中の皆さんからいただいていたキーワード「伝統文化」「おせっかい精神」「学び返し」「誇り」についてもお話しした。

他市から意見として会議録にある通り、「学び返し」を使っても良いということだった。それから都市社連協の統一テーマ「絆」の意味として「助け合い」と、災害の時にとっても役に立ったということで「おせっかい」など、世代を超えた繋がりを示す言葉が良いのではないか。

日本で「おせっかい」「誇り」を総合すると「日本人の心」の原点に行きつく。そこを大切にし、色々な事を繋ぐことで解決に向かうのではないか。そういう言葉を加味してほしい。「日本人の心」「おせっかい」という言葉は若者の視点からどう映るのか。「日本人の心」の大切さを共有することは大切であるが、若者から見ても理解できるようなブロック研修になってほしい。という意見があった。

その後、調布市からもご意見をいただいた。伝統文化を大切にする（自分のまちで誇りにする）ということで、「地域の繋がり」「おせっかい精神」というキーワードが出てきた。そこから「若者にもわかりやすいようなものが良い」という意見が会議で出ていたので、その部分もお願いしたい、とのことだった。これらの意見も念頭に置きながら、テーマについてご意見いただき決定していけたら良いと思う。

形にはならなくとも、こういう言葉を入れれば良いというご意見をいただきながら、まとめていきたい。

- 若者とはどのくらいの年齢層なのか。学生を中心としているのか。若者という言葉で一括りしてしまうと、対象が分からなくなる。この中身を検討するにも出てきにくいと思う。
- 国によって異なるが、日本では中学の義務教育を終えた15歳位から30歳位までを若者と言う。だいたい15歳を分岐点として24, 5歳、長くとも30歳位までを若者と言う。
- 昭和43年頃から自治会の親睦委員をしてきた。お花見の会等をしてきたが、いつも役員だけが集まっていた。今回、初めて50歳代の方が会長になると、日電の社員か何かを引きずり込んでセンター祭りにも参加してもらった。すると去年から盛り上がり、今年は納涼祭りをしよう等という意見が若者から少しずつ出てきた。何かきっかけ作りが大事だと思わされた。

我々年配だけが頑張るのではなく、青年や壮年を巻き込んでいくのも「おせっかい」の役目だと思った。「学び返し」の次のファシリテーターの「おせっかい」。お年寄りが老人クラブだけでまとまらず、その代表の方が少し若者のところに声掛けができる場所、文化センターは良い例だと思う。自治会長、老人会長、自主グループのリーダーが集まってコミュニティ協議会をしている。火付け役をするような人たちなので、自分たちだけに留まらず自治会に帰ってからもやってもらえるように仕向けるようにすると良いと思う。社会教育に目覚めた人や職員からアドバイスをしてもらったり、社会教育委員に相談するということが欠けているように思う。

- 前は世代間の交流というような文言が出ていたので、そういうテーマで繋がっていくように思う。「学び返し」を使って何かできないか。府中は事例発表をする番ではなく、テーマに沿って3市に発表していただく。
- 「絆—わたしたちの輝くまちづくり」というテーマは、狛江市が言っている世代間交流で、若者の意見を考えていないようなところが出ている気がする。世代間の考え方は違うので、どこかで結びつけないと上手くいかない。
- 前回の会議で良い案がある方は事務局に連絡することになっていたが、何かあったか。
- 「今だからこそ各地の伝統文化を継承し、絆をより一層深め合う」というのをいただいていた。
- 女性にマナーとファッションの境に聞きたい。この間、結婚式に出席したのだが、その場に相応しくない格好をしている女性がいた。それは礼服として良いものか。

- 私も結婚式に出席したが、若い子たちはスカートの丈も短く、派手な格好をしていた。昔は花嫁より華やかにしてはいけないと言われていた。
- それは世代の考え方の違いだと思う。50歳以上だと花嫁より目立たないように、ある程度隠して出るようにするが、20～30歳の世代はそれがファッションだと思っている。根本的に考え方が違う。
- そういう時は親がアドバイスをするのが普通だと思う。
- 私たちは戦時中に育ったから頭の中にある。入れ墨の問題も同じで、日本の文化ではなく、犯罪者の標識番号で使っていたものだった。それが今ファッションで使われているのは、どうも理解できない。何でも正当化するように言うが、私は馴染めない。食堂でも帽子を被っている人がいたが、室内では帽子を取るよう教育を受けてきた。今学校では指導はしないのか。
- している。挨拶する時、室内に入る時は帽子を取るように言っている。
- 今朝の新聞に、中国で倒れている人を助けたら、逆にあなたに倒されたと訴訟されたと載っていた。絆も何もないと思う。
- 前回の審議の中で、「文化が紡ぐ町づくり」というのが出ていた。その「文化」に「伝統」を付けても良い。やはり文化で世代間の交流をしていくことで、文化が紡いでいく町づくりも良いと思う。あと「文化が紡ぎだす人と町」。
- 府中の伝統文化はくらやみ祭りとお囃子、よさこい。
- よさこいはまだ伝統ではない。
- 新人はよさこいに入ってしまう。
- 民謡流しはよさこいに行ってしまった。だんだん少なくなってしまう。浴衣よりもよさこいの華やかな衣装の方に行ってしまう。
- 府中小唄に合わせてやってみたが良かった。よさこいにアレンジできると思った。そういうのから入るのも一つの手だと思う。健康増進のためにも良いと思う。
- 「学び返し 町の誇りを再発見」「学び返し 伝統文化を再発見」。「学び返し」と繋がってもおかしくない。
- 若い世代と年配の世代のギャップがあるので、理解できないということは交流が少ないということだと思う。世代間の交流も学び返しの発展というような文言を入れていただきたい。
- 八王子では学生を担ぎ出して、町おこしをしている。
- 学生が参加したいのは、よさこい。府中高校の生徒を2010年に社会貢献の一環として参加させている。

- 青山学院は徳島で青学連を卒業生と一緒に組んでいる。青学だけではなく、ほとんどの大学が作っている。地域の大学というわけではない。27年前に府中でも同じようなものを作ろうとしたが、府中は徳島ではないと反対された。
  - 何を大きなテーマにするか。
  - 「学び返し」は入れたほうが良い。
  - 「地域に戻そうあなたの学び」
  - このテーマは小金井市、武蔵野市、調布市が事例発表をすることになるのだが、これらはあまりにも抽象的な感じがする。3市に事例発表してもらうためには、世代間の交流と学び返しが成功した例を実際に出してもらわなければならない。
  - 抽象的に出しておかないと各市が事例を引っ張り上げて来られない。具体的に絞りすぎても各市が困るケースがある。
  - 成功例を挙げてもらうということで、府中市も参考にできる。例を挙げるだけに終わってしまうと何の意味もない。講座や催しなどは、年代ごとにかたまっている感じがするので、次の世代に紡いでいくという意識が府中市には足りないと思う。
  - 世代間の交流という文言を入れる。
  - あと事例発表していただいた方が研修として効果があるのだと思う。
  - 第5ブロック会議の中でも世代間の交流というのは話した。再度、3市に理解してもらうように話したい。
  - 府中市で最も誇りうる世代間の交流は何か。
  - ➔ 生涯学習センターでは色々な講座があり、受けてみたいものもあるが、普通に働いていると土日か平日の夜間にそういう講座がないと参加できないという意見をいただく。そうすると現役を終えた年齢層の高い方が学習をするだけの施設運営をして行かざるを得ない状況にある。圧倒的にその年齢層にニーズが多いので、講座の中身もそれに合わせることになる。
- 前回からも聞いていて、世代間の交流でイメージできるのはお囃子で、会員の数も多く、年配の方から小さい子どもまでいる。府中市全体に広まっているが、転入してきた方たちからは入りにくいというのも耳にしている。しかし、決してそうではなく小学校の友達を誘って来て、地域のお祭りの時には一緒に練習し、それに親も付いて来る。府中の伝統文化の中に「学び返し」も入っているし、世代間交流などが分かりやすい形であることは間違いない。おそらく異論はないと思う。
- 最近の事例としては、単位は小さいが古墳保存会は町内会で動いていて、世代間でも動いている。
  - 本宿小の合唱団にも出てもらった。

- 発掘等は全国でやっているところがある。例えば、八戸では埴輪が出てきたので、発掘と同時に埴輪作りを小学校の先生が生徒に教えて、地域の歴史を学びながら世代間の交流をしている。例えば、秀吉の館が発見されて何か出てきたら、それを世代間の交流に取り上げてもおもしろいと思う。府中でもお囃子と太鼓を中心に年配者が若い世代に教えている。学校では教えられない教育面や情操教育があって、町の絆や繋がりも全部貢献してきていると思う。抽象的なものを考えると同時に、具体的に何が誇れて、何が誇れないかを考えて報告すると説得力があると思う。やはり具体的に誇りうる点を出さないと、他の人にアピールできないと思う。
- ➡ 囃子保存会の式典があって出席してきた。70歳過ぎの方の挨拶で、若い頃はお囃子をやっている人がいなく、やっているから不良になるから辞めろと言われた。今は年配の方たちが子どもたちに教えていて健全育成をさせていただいている。
- 不良にならなくても受験勉強が進んだときは、それに時間をとられてしまう。私も小さい頃は屋台で太鼓をたたいていた。歌を50位歌わないと青年団に叱られていた。未だに意味が分からない歌詞だった。間違えると足をひねられる。府中も生い立ちを考えるとこういうことがあるのではないか。
- 私の孫もお囃子に入れた。青年会の人たちから正座の仕方や挨拶等を厳しくしつけられる。しかし、受験になると勉強が忙しくなり辞めてしまった。
- 小さい頃に教えてもらった礼儀は覚えているものだ。
- 大人になってからも思い出したり、何かあった時にやってみようと思う。私の娘も小学校1年生からお囃子をやっていたが、練習が午後7時～9時頃にあった。子どもは早く寝かしたいので、もう少し早く始めて8時頃に終わるようにできないか相談したことがあった。そして、何かあると子どもたちがいる前でも若い方たちが酒を飲み始める。それはどうかと思って辞めさせようかと思ったときもあった。そういう意味では良い部分も悪い部分もある中で、良い部分だけをいただいて、今後、大人になってから分かる部分もあると思う。そういう良いものばかり見せるというのとは違うと思う。

(休憩)

- 何か新しい言葉で、世代間に運べる形はないか。今までの話しで一番出ているのは「世代間交流」の大切さである。
- 「世代間交流」と直接的に言わなくても、市民という言葉であれば、全世帯を含む言葉になると思う。「学び返し～文化を紡ぎ市民をつなぐ」「学び返し～市民をつなぎ文化を紡ぐ」

- ひらがなで「つむぐ」の方が見やすい。
- 「紡ぐ」という言葉は若い人たちは使うのか。
- ひらがなよりも漢字の方が分かりやすい。糸偏から糸で紡ぐというイメージが湧きやすいと思う。
- 「見直そう 世代交流 おせっかい」。「おせっかい」という言葉が出てこなかった。
- 「おせっかい」というと悪いイメージがある。「おせっかい」の類義語はあるか。具体的に言えば声掛け等だと思う。
- 強さが違うと思う。「おせっかい」という深い意味がある。
- これも世代間の違いか。
- あまりに関わり合いを持たないようになっている。
- 韓国は儒教があるので、大学のキャンパスで先生だと分からなくても年配者には頭を下げる。青学では知っている学生でも頭を下げない。今は若い人でも優先席で席を空ける人がいる。
- 最近は多くなった。
- 「おせっかい」は良くとられる場合と悪くとられる場合がある。若い人は非常に嫌がる。ほどほどにしないと殴られる。
- 「おせっかい精神」とした方が良い。
- テーマは今日決めた方がいいのか。
- 今月中に報告しなければならない。
- お囃子ができる子どもたちや指導している大人を会場に呼んで、府中が伝統としていることを披露して「学び返し」について話すと良いと思う。インパクトがあると思う。話すのは10分位が良い。
- 文化の継承だけでなく、お囃子の仲間は公会堂で練習した後は、後片付けを厳しくやっているの、そういう面でも良いことが多い。
- 世代間の交流ということで、今は年上の人から年下の人へという感じで議論が進められているが、実際に震災が起きた時には、逆の可能性がかなり高いと思う。外出先などではスマートフォン等の操作ができる若い人を頼っていかないと、情報を取り入れる事に不得手な高齢者たちにはパニックになってしまうことが多くなると思う。そういうこともテーマに含められたら良いと思った。
- それも「学び返し」で、生涯教育でもコンピューターを教えている人は若い人など逆もある。そうすると「学び返し」が開けてくる。相互交流になるので良いことだと思う。

伝統文化を入れておくと話しやすいと思う。「伝統文化を紡ぎ、市民をつなぐ」とすると総合的に集まるのではないか。

- 語呂が悪いような気がする。「学び返し～伝統文化が市民をつなぐ」。伝統文化を学ぶことで市民をつなぐという解釈ができる。
- 若い人から教わることもあるが、伝統文化というのは、だいたい年配の人から若い人に教えるというもの。「伝統文化と市民をつなぐ」が良いと思う。ただ他市に伝統文化がないと言われたら困る。
- 何かしらあると思う。
- 大きなテーマはどうなるか。
- 「学び返し」をせっかく続けているので、入れた方が良くと思う。
- 今いただいた文言を正副と事務局にらせていただいで良いか。

(一同了承)

- 今後は、府中市の基調講演としてお囃子を披露するのか、また会場確保等を含め報告していく。

また、当日の準備等について審議会委員全員でやっていくが、司会進行等の運営的な役割については社会教育委員を中心にしていくので当日はよろしく願いたい。

(2) 最終答申について

- 小委員会を立ち上げるにあたり、メンバーを決めていきたい。議長としては三宅副会長にお願いしたい。実際に動き出すのは9月頃になると思う。
  - ・三宅副会長・小林(清)委員・坂本委員・寺谷委員・戸島委員 をお願いするがよろしいか。

(一同了承)

## 7 その他

次回審議会について

第4回：7月30日(月)午後2時～4時

府中市生涯学習センター 1階会議室